

2017年1月

インテリアフロア工業会（I.F.A）

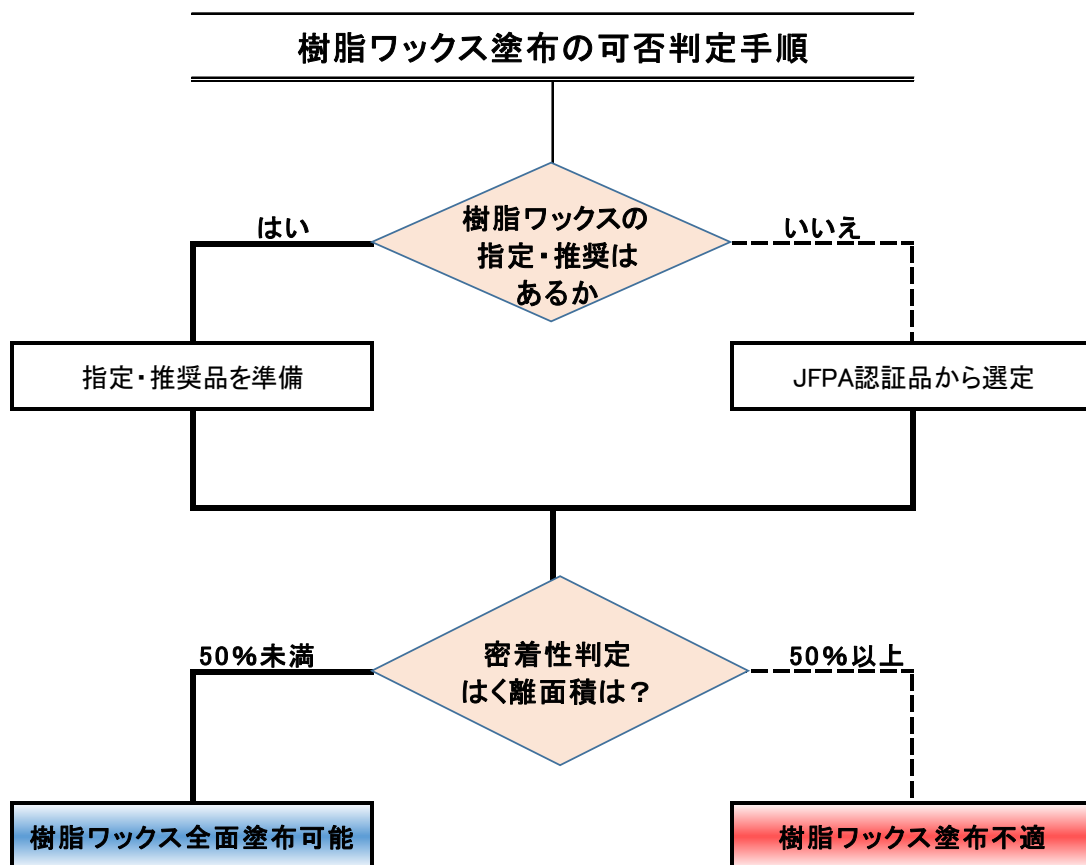
日本フローアポリッシュ工業会（JFPA）技術委員会

ビニル系床材と樹脂ワックスとの密着不良リスク低減のための作業手順

近年のビニル系床材の表面には、一時的に汚れを防止するコート剤や長期的に保護する硬度の高いUV硬化型樹脂などが製造段階で施されているものがあります。

樹脂ワックスの塗布については、以下のフローチャートに従って【樹脂ワックス塗布の可否】を判断してください。

フローチャート（全体の流れ）



判定手順（詳細）

1. 樹脂ワックスの準備

- オーナー（施主）または床材メーカーに樹脂ワックスの指定品・推奨品があるか確認してください。
- 樹脂ワックスの塗布を禁止している場合には、その指針に従ってください。



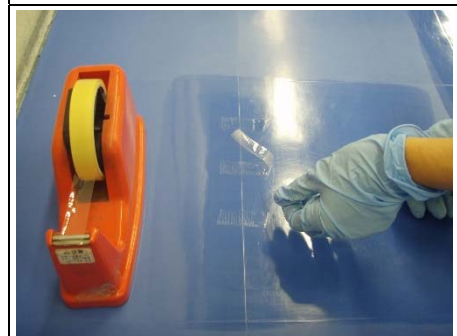
手順1 洗 浄

2. 樹脂ワックスの密着性テスト

- 目立たない場所でセロハン粘着テープ*¹ による密着性テストを下記の手順で行います。
- 表面洗浄用アルカリ洗剤*² の希釈液を用意し、ウエスで床面に塗布してから、床面洗浄用の青パッド*³ で洗剤を塗布した床面を洗浄します（手順1）。ウエスで汚水を拭き取り、ウエスで水拭きしてから床面を乾燥させます。
- 樹脂ワックス*⁴ は、ガーゼなどを使って薄く1層塗り、自然乾燥させます（手順2）。その後、温風ドライヤーを10分程度かけて完全乾燥させます。
- 全長約10cmのセロハン粘着テープのうち長さ約5cmを塗布した床面に貼り付けて、残りの5cm部分を直角に保ち、一気に上へ引き剥がします（手順3）。
3ヶ所について密着性をテストします。



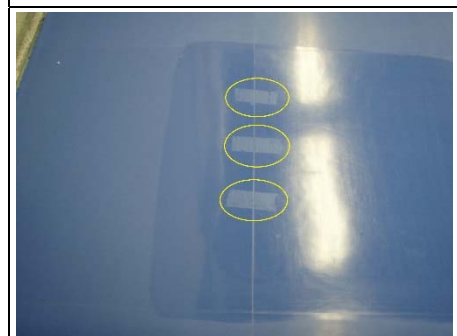
手順2 塗 布



手順3 テープ貼り付け

3. 樹脂ワックス塗布の判定

- 3ヶ所の密着性テストの結果、皮膜のはく離面積が50%未満の場合には、全面に対して塗布が可能です。はく離面積が50%以上の場合は、樹脂ワックスの塗布は推奨できません（手順4）。
「塗布不適」になった場合には、目の粗いパッドによる洗浄の効果も確認してください。



手順4 樹脂ワックス塗布の判定
はく離面積 50%未満：全面塗布可能
はく離面積 50%以上：塗布不適

作業手順（判定：樹脂ワックス塗布全面可能）

1. 床面の洗浄

- 表面洗浄用アルカリ洗剤の希釈液を用意し、モップにて床面にムラ無く塗布します。
- 次いで、床面洗浄用の青パッドを装着したポリッシャーにて、床面を念入りに洗浄します。汚水を回収し、水拭きモップで十分に拭きあげたのち、床面を十分乾燥させます。必要に応じて、目の粗い緑パッド、茶パッドも使用可能ですが、床材によっては意匠性が損なわれる場合があります。また、白パッドや赤パッドでは、洗浄が不十分な場合がありますので注意してください。

2. 樹脂ワックスの塗布

- 乾燥後、塗布モップにて樹脂ワックスを指定回数塗布します。
適宜送風機を用いながら、乾燥させます。

[注*1] ニチバン(株)、積水化学工業(株)などから販売されています。

[注*2] JFPA 認証マークの付いたアルカリ洗剤または、はく離剤を推奨します。

[注*3] スリーエム・ジャパン(株)製ブルークリーナーパッド（青）を推奨します。

[注*4] JFPA 認証マークの付いた樹脂ワックスを推奨します。

【補足】

上記の作業手順を実施しても樹脂ワックスが密着不良を起こす場合は、他の要因が考えられます。歩行量、土砂量、水分付着、洗浄作業方法、樹脂ワックスの塗布条件、乾燥条件などの要因も考えられますので、条件を見直し、はく離してから再塗布してください。

なお、本作業手順は、樹脂ワックスの密着性を100%保証するものではありません。

以上